

ライオンズクラブ国際協会 337-E地区  
献眼・献腎・献血運動協力会 研修会

熊本赤十字病院  
(公財) 熊本県移植医療推進財団  
吉田 清美

2018.10.20

## 熊本県の移植医療の歴史

- 昭和31年 『熊本眼の銀行』誕生(慈愛園内)
- 33年 「角膜の移植に関する法律」
- 48年 人吉・熊本ライオンズクラブ等が  
アイバンク運動開始
- 54年 (財)熊本県アイバンク協会設立  
県衛生総務課(当時)内
- 平成元年 (財)熊本県角膜・腎臓バンク協会・日赤内
- 9年 「臓器の移植に関する法律」
- 22年 改正臓器移植法・全国大会(熊本で)
- 25年 公益財団法人となる
- 27年 県下初の脳死下臓器提供

## アイバンクとは

眼球提供を受け安全性を確認した上で、角膜、強膜を必要としている患者に公平にあっせんする機関である。

その活動は、

- ①十分なドナーを獲得する
  - ②安全な角膜を供給する ✓
  - ③公平・公正に分配する
- の三原則に基づいて行われている。

## 活動内容

### ④啓発活動

角膜摘出

ドナーの血清及び角膜の検査

角膜・強膜の保存

✓移植希望患者の登録

あっせん

記録



アイバンクのキャラクター アイちゃん

## 角膜提供（献眼）とは

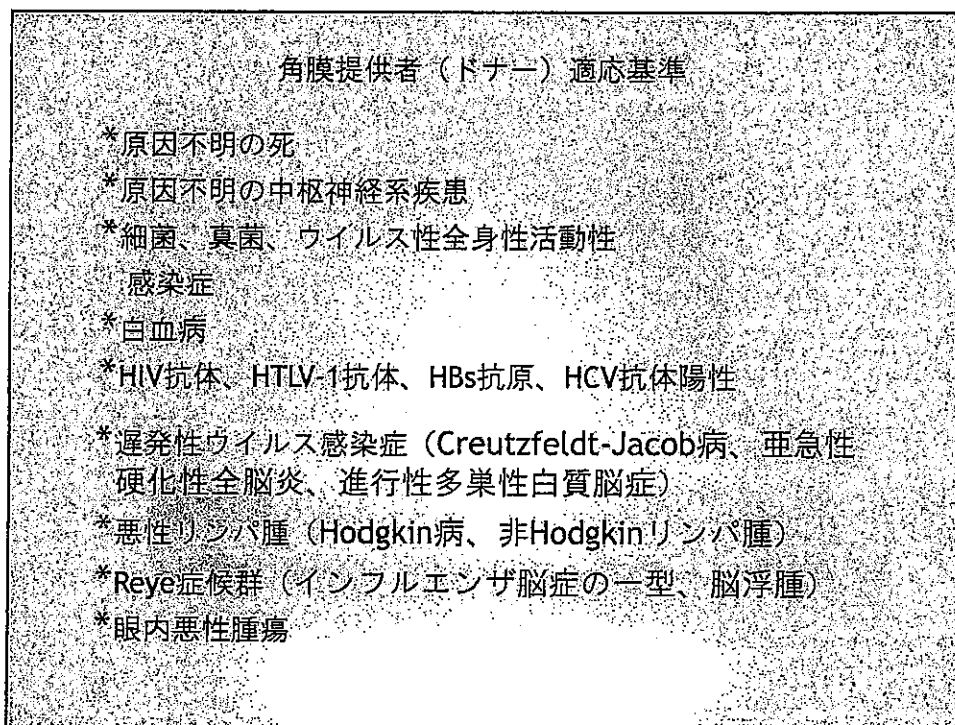
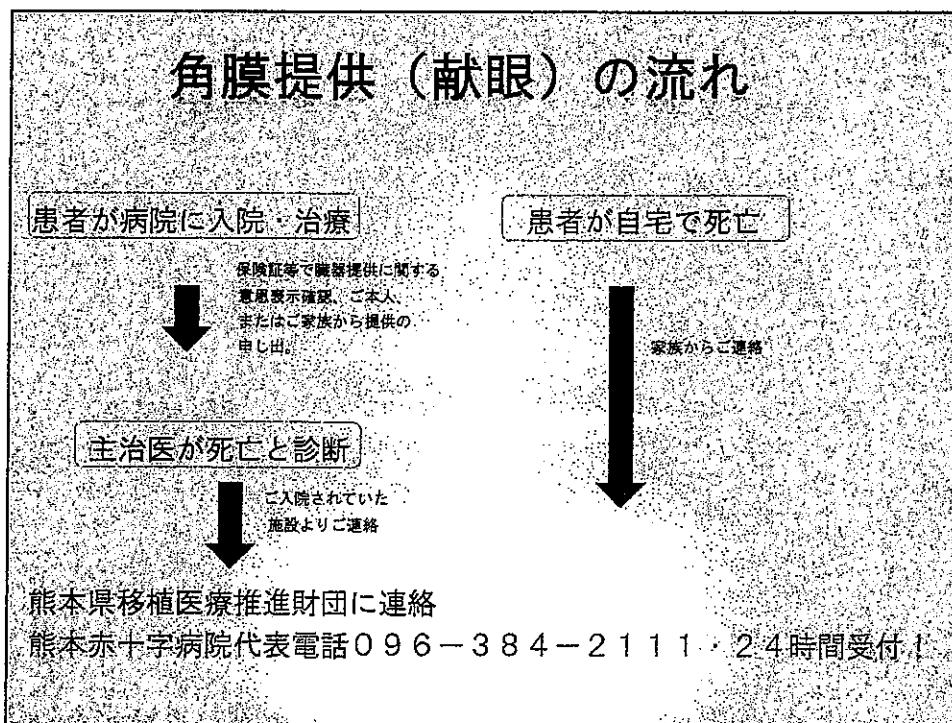
～角膜移植は人から人への光の架け橋～

### 献 眼



死後、眼球（角膜）をアイバンクに寄付して、その角膜を移植に使用してもらうこと

④



# 熊本県で角膜移植が必要な人

## 134名✓

(平成29年9月30日現在)

### ～角膜移植を受けた40代男性のサンクスレター～

#### 二人で見る目

先ずはもつて、深い悲しみも癒えぬ中、ドナーの方、角膜提供について了承をいただきましたご遺族の皆様へ御礼申し上げます。

御礼と言いつつも何という言葉で気持ちを表せるのかわからないから手紙を綴らせております。

私は出生時、鉗子分娩の器具の一部が目当たり、母親の身体から取り出された時は、左目の黒眼が白かったと聞いています。物心ついたときから左目の視力は殆どありません。小学校の頃、眼科を受診した時、角膜細胞が壊れているので治りません。矯正も不能です。という診断結果でした。そのため、右目を酷使し違和感があり次第に目もぼやけ、酷い時には殆ど見えない目もありました。しかし、今回の移植により視力が出てきて今までに見た事のない物の輪郭やテレビの文字もはっきりと読めるほどになりました。これもひとえにドナーの方、ご遺族の皆様の賜物と心より感謝しております。

私には、ドナーの方の目を宿しています。今後、その事を忘れることなく日々生活して行きます。

御礼の言葉になつたのかわかりませんが、どうしても気持ちをお伝えしたくてお手紙を綴らせて頂きました。

最後にもう一度、ご遺族の皆様へ感謝申し上げるとともに、ドナーの方の御冥福を心よりお祈りいたします。